



介護保険料の負担軽減は

河合 克平議員

第8期は9期も見据え負担軽減を考える
保険福祉部長

	平成30年	令和元年	令和2年予定
基金残高(円)	592,233,690	469,998,690	472,378,690
被保険者当の基金	30,528円	24,227円	24,349円

▲介護保険準備金一人当たりの残高

問 第8期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の考え方は。

答 愛西市の高齢化率は高いが、要介護認定率は低い。要介護認定を受けなくても済むように、また、認定を受ける時期を遅らせるため、介護予防に力を入れていきたい。

問 第7期の進捗の状況と、準備金は。

答 保険料の総額と給付費の総額は、ともに当初

の見込みより少ない。基金の積立てをほぼ取り崩すことなく介護保険特別会計の運営ができています。

令和元年度決算の基金残高は、4億6998万6千円で、一人当たりは約2万4200円である。

問 準備金を活用して負担の軽減を図る考えは。

答 第8期介護保険料を見込むに当たり、9期も見据えた上で負担の軽減を考えたい。

問 多段階を設定して応能負担を強める考えは。

答 保険料の段階は、11段階で設定をしている。国基準より、2段階多くし、高所得者に高い率での保険料を負担してもらっている。第8期保険料では、この段階を増やしていくかも含めて試算、検討をしている。

	介護認定率	段階	最高倍率	標準月額
愛西市	15.4%	11段階	1.85	5,100円
あま市	17.0%	12段階	2.00	5,200円
大治町	16.1%	12段階	1.95	5,200円
蟹江町	15.9%	11段階	1.90	5,500円
弥富市	16.1%	12段階	2.10	5,540円
津島市	16.2%	17段階	2.30	5,600円
飛島村	14.2%	12段階	2.30	6,350円

▲介護保険認定率と標準月額保険料